

令和八年度 入学者選抜学力検査問題

国 語

注 意 事 項

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子及び解答用紙の中を見てはいけません。
- 二 解答用紙は三枚あります。
- 三 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の枚数の過不足や汚れ等気がついた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 四 試験開始後、すべての解答用紙に受験番号、志望学部及び氏名を記入してください。受験番号の記入欄は各解答用紙に二箇所あります。
- 五 解答はすべて解答用紙の指定された解答欄に記入してください。
- 六 問題冊子の余白は適宜使用してください。
- 七 各問題の配点は二百点満点としたときのものです。
- 八 設問の都合で、空欄を設けたり、傍線を引いた箇所があります。
- 九 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

— 次の文章は、岡部勉『合理的とはどういうことか 愚かさと弱さの哲学』の「人間性の起源」の一部である。この文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

(配点80)

〈著作権保護の観点から掲載しておりません。〉

〈著作権保護の観点から掲載しておりません。〉

〈著作権保護の観点から掲載しておりません。〉

〈著作権保護の観点から掲載しておりません。〉

(注)

- 1 臨界期——ある行動を学習したり能力を獲得するのに適切な時期があるという考え方に基づいた、その期間の境目のこと。
- 2 最初に——出題文以外の箇所を指す。

問一 傍線部①く⑥について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二 空欄 [ I ] く [ V ] に入る言葉として最も適当なものを、次のア～キの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、それぞれ一度しか使うことができない。

- ア なぜなら      イ 他方      ウ たとえば      エ あるいは      オ したがって      カ ところで      キ もちろん

問三 傍線部A「人間の場合の特殊性」に関する説明として適当なものを、次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地球上の生物はどの生物も遺伝子的な仕組みは同じであるが、人間のみ独自のシステムを発達させ、文明を生み出した、ということ。
- イ 様々な言語を習得する能力に端的に表れるように、大脳皮質のような身体的部位に、実現される可能性のすべてがあらかじめ書き込まれているわけではない、ということ。
- ウ 生命活動のやり方は植物と人間を含む動物では異なっているが、動物の中でも音声を使用するという点で人間のシステムが特殊である、ということ。
- エ 人間も動物も音声によるコミュニケーションを取るが、人間は母語だけでなく、複数の言語を習得することができる、ということ。
- オ 人間は大脳皮質が他の動物より発達しているため、第一次的能力と第二次的能力という二つの能力を有す、ということ。

問四 傍線部B「感情についても」とあるが、この段落では感情に関して人間と動物の違いが述べられている。その違いについて、八十字以内で具体的に説明しなさい。

問五 傍線部C「ヒトから人間になるプロセス」とあるが、本文では「ヒトから人間になるプロセス」としてどのようなプロセスが説明されているか、六十字以内で説明しなさい。

問六 傍線部D「人間と他の動物の、活動の違い」という意味での、決定的な違い」について、本文ではどのように説明されているか。「社会性」「計画性」「コミュニケーション活動」という語を使用しながら百字以内で説明しなさい。

(白紙ページ)

二 次の記事を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文は一部表記等を変更している。(配点70)

(注1) (注2)  
 中比、播磨国に平野と云ふ所の山の麓に、海に向かひて、形ばかりなる庵結びて行ふ法師侍り。明け暮れ念仏を申してなん侍りけり。ある時、人行きて  
 ① 発心の因縁を尋ね侍りければ、「いとむつましく侍りし妻なん、はかなくみなしてしかば、いつれの所に、いかなる苦を受けてか嘆くらんと、悲しく覚え  
 て、かの女の後世をとぶらひ侍らんと思ひて、田などの侍りしをも皆捨てて、かくまかりなりし後には、念仏すべて怠りなく侍り」とぞ語りける。里へ出  
 づるわざなんともせざりければ、人々あはれみて、食ひ物形のごとくしてぞ渡世をしける。(注4)

ある時、例ならず、この僧里に出でて人々に云ふやう、「おのれは、晝往生し侍るべければ、今は限りの対面もあらまほしくて、出で侍るなり。この  
 日比のあはれび、尽くしがたく覚え侍り」と、よにもあはれに云ひけれども、まことしくも思はざりけるに、云ひしごとく、晝息絶えてけり。あやしき雲  
 空にそびき、常ならぬ香庵に満ちて、眠れるがごとくして、  
 X に向き手を合はせて侍りけり。

F この事伝へ聞くに、あはれに悲しく侍り。まことに妻男となれるならひ、借老同穴の契りこまやかに、来ん世を引きかけて頼むわざ浅からず。かのもろ  
 こしの帝の、空をかけらば翼をならぶる鳥となり、地に住まば枝を連ぬる身とならむ契り、この大和国には、うつらとなりて鳴きをらんなど聞こゆめ  
 る。げに罪深く、頼むれども、死して後は、人の心のうたてさは、あらぬ色にのみうつりて、頼めし人のことは忘れはてて、こまごまに後世とぶらふ情  
 けを尽くさざるに、この僧の思ひ入りて勤めけん、げにありがたく覚えて侍る。とぶらふ聖往生侍りぬれば、とはるる女よもむなしきわざ侍らじと、  
 返す返すうらやましく侍り。げにいかなれば、生けるほどは、その事となく身のいたづらになりぬるまで思ふ人の死して後の苦しみを嘆かざるらんと、悲  
 しく覚えて侍り。

さて、この聖は、いづくの人にてか侍りけん。所も知り侍らず。姿ありさまなどは、つたなげに侍りけるなりと聞くにも、いよいよ心の中ゆかしく  
 思ひやられて侍り。発心の始めより命終の終はるまで、澄みてぞ覚え侍る。(注8)

(注)

- 1 中比——あまり遠くない昔。
- 2 播磨国——現在の兵庫県南西部。
- 3 「けり」——「なむ」の結びだが、ここでは「けり」で結ばれている。
- 4 渡世——生活していくこと。
- 5 妻男——妻と夫。
- 6 空をかけらば翼をならぶる鳥となり、地に住まば枝を連ぬる身とならむ  
——唐の玄宗皇帝と楊貴妃（ようききひ）の関係をうたった、白楽天の「長恨歌」をふまえる文。
- 7 うづらとなりて鳴きをらん  
——『伊勢物語』百二十三段の、男が女との生活に飽きて、私が去ったならばこの深草の里は今以上にひどい荒れ野となってしまうのでしょうかと贈った歌に対する女の返歌「野とならばうづらとなりて鳴きをらんかりにだにやは君は来さらむ」の第二句と第三句に一致する。
- 8 命終の終はるまで——命の終わるまで。死ぬまで。

問一 傍線部 a～d の助動詞について、それぞれの文法的意味と活用形を答えなさい。

問二 傍線部 A「かくまかりなりし」、B「里へ出づるわざなんどもせざりけれ」、E「まことしくも思はざりける」、F「この事伝へ聞く」について、それぞれの主語を次のア～オの選択肢の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。なお、同じ記号を何度選んでもよい。

- ア 法師  
イ 妻  
ウ 里の人々  
エ もろこしの帝  
オ 作者

問三 傍線部C「例ならず」、D「今は限りの対面もあらまほしくて」、G「頼めし人のことは忘れはてて」、H「よもむなしきわざ侍らじ」をそれぞれ現代語訳しなさい。

問四 傍線部①「発心の因縁を尋ね侍りければ」とあるが、この法師の「発心の因縁」とは何であったか。五十字程度で説明しなさい。

問五 傍線部②「この日比のあはれば、尽くしがたく覚え侍り」とあるが、どのようなことに対してそのような思っているのか。五十字程度で答えなさい。

問六 空欄 X には方角を表す言葉が入る。漢字一字で答えなさい。

問七 作者は、法師の生き方を一般の人と対比してどのように評価しているか。百字程度で答えなさい。

(白紙ページ)

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい(設問の都合で、返り点、送り仮名を省いたところがある)。(配点50)

王烈字彦方、太原人也。少師事陳寔、以義行称。郷里有盗牛者、主得之。

盜請罪曰「刑戮是甘、乞不使王彦方知也。」烈聞而使二人謝之、遺布一端。或

問其故。烈曰「盜懼吾聞其過。是有恥惡之心。既懷恥惡、必能改善、故

以此激之。」後有老父遺劍於路。行道一人見而守之。至暮、老父還、尋得

劍。怪而問其姓名、以事告烈。烈使推求、乃先盜牛者也。諸有爭訟、曲

直、將質之於烈、或至塗而反、或望廬而還。其以德感人若此。

(『後漢書』独行列伝より)

(注)

- 1 太原——太原郡。今の山西省太原市を含む地域。
- 2 陳寔——後漢の人。地方官として公正な裁判を行った。
- 3 義行——道義にもとづいた行い。
- 4 主——牛の持ち主。
- 5 盗——ぬすびと。
- 6 謝——なくさめいたわる。
- 7 老父——老人。
- 8 争訟曲直——もめごとを争う。
- 9 質——問いたたす。
- 10 徳——ここでは徳行の意。人としての価値ある行い。(注3)の義行に同じ。

問一 波線部A「少」、B「称」、C「懼」、D「乃」を訓読し、送り仮名があればそれも含めて、平仮名で書きなさい。解答は現代仮名遣いでよい。

問二 傍線部①「刑戮是甘」とはどのような意味か。次のア～エから一つを選び、記号で答えなさい。

- ア 刑罰を科すのはお許しください。
- イ 刑罰は軽いものであればお受けします。
- ウ 刑罰を科されるだけでは不十分です。
- エ 刑罰は快くお受けします。

問三 傍線部②「乞不使王彦方知也」は、「乞ふらくは王彦方をして知らしめざらんことを」と訓読する。これに従って返り点を施しなさい。

問四 傍線部③に「或問其故」とあるが、「或るひと」の問いを受けて、「牛を盗む者」に布一端を贈った理由を王烈はどのように説明したか、答えなさい。

問五 傍線部④「諸有争訟曲直、将質之於烈、或至塗而反、或望廬而還」を漢字仮名交じり文で書き下しなさい。

問六 傍線部⑤「其以德感人若此」は「王烈の徳が人を感化させたさまはこのようであった」という意味である。「先の牛を盗みし者」の場合の、王烈の徳に感化されて取った行動を具体的に述べなさい。